

1. 学芸大学駅周辺地区整備計画とは・・・

「学芸大学駅周辺地区整備計画」（以下「地区整備計画」という。）は、「学芸大学駅周辺地区整備構想」（平成 18 年度策定）で掲げた地区の“目指す将来の姿（※）”の実現に向けて策定した、**地区整備に関する総合的な計画**です。

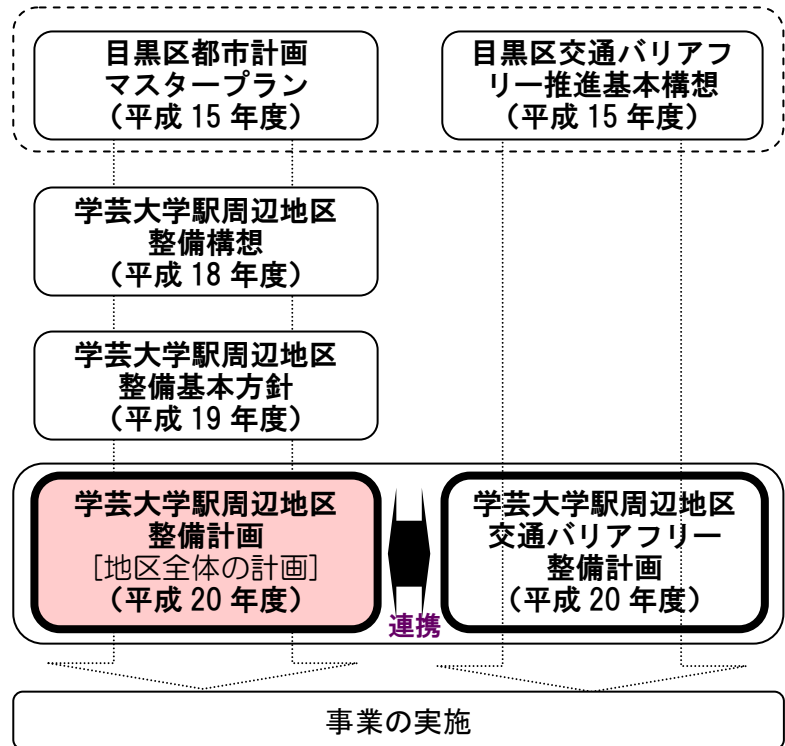
今後区では、地元住民、事業者、関係機関等と連携・協力しながら、計画の実現のため取組みを進めます。

※ 目指す将来の姿（10年後の姿）

“にぎわう商店街、オアシス碑文谷公園、閑静な住宅地の広がり、生活を大切にする安全・安心なまち”

「都市計画マスタープラン」（平成 16 年 3 月策定）で“地区生活拠点”として位置づけられた学芸大学駅周辺地区について、地域の実情に応じたきめ細やかな街づくりを進めていくため、平成 18 年度に「学芸大学駅周辺地区整備構想（以下、「整備構想」という。）」を策定しました。

19 年度に、“整備の具体化に向けた道しるべ”となる「学芸大学駅周辺地区整備基本方針」（以下、「整備基本方針」という。）を策定し、20 年度には、より具体的な計画である「学芸大学駅周辺地区整備計画」（以下、「地区整備計画」という。）と、「交通バリアフリー整備計画」を策定しました。



□ 計画の期間

「整備構想」の目標年次である平成 28 年度（2016 年度）までとします。

□ 対象地区の範囲

「整備構想」の範囲と同じとしています。

「学芸大学駅」及び「碑文谷公園」を中心とする幹線道路（環状七号線（幅員 25m）、目黒通り（25m）、駒沢通り（15～20m）、整備が予定されている補助 26 号線（20m））に囲まれた区域。（居住環境区域）

※居住環境区域：幹線道路に囲まれ、通過交通の流入抑制や生活道路網の整備を進めていく区域

